

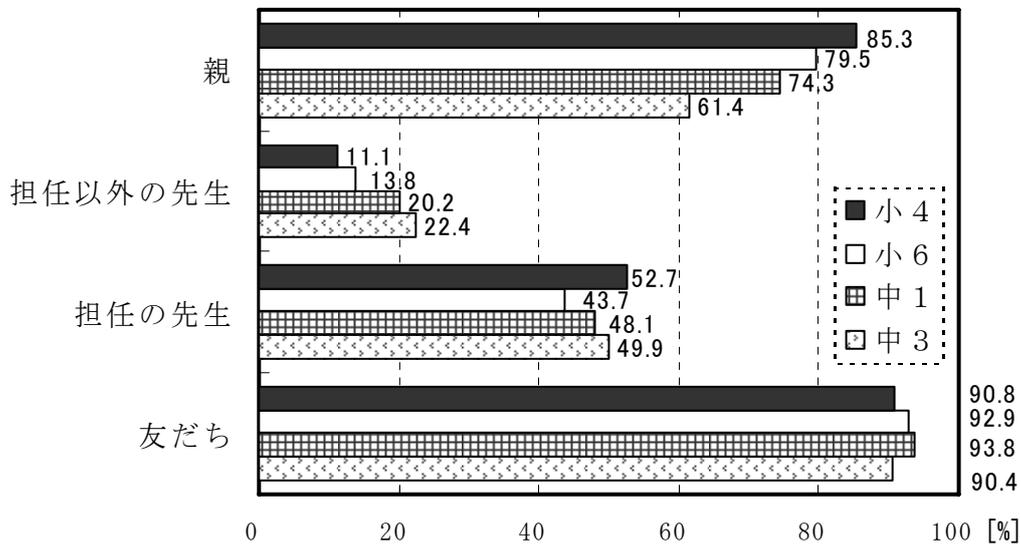
「子どもたちのコミュニケーションに関するアンケート調査」集計結果の特徴

(1) 「子どもの学校生活に関するアンケート（平成18年6月実施）」からわかったこと

小学校段階から、子どもたちの人間関係が広がり、徐々に親からの自立意識の高まりが見られ、友だちとのコミュニケーション重視ようになる。特に、小学校中学年から高学年の時期の意識の変化が顕著である。

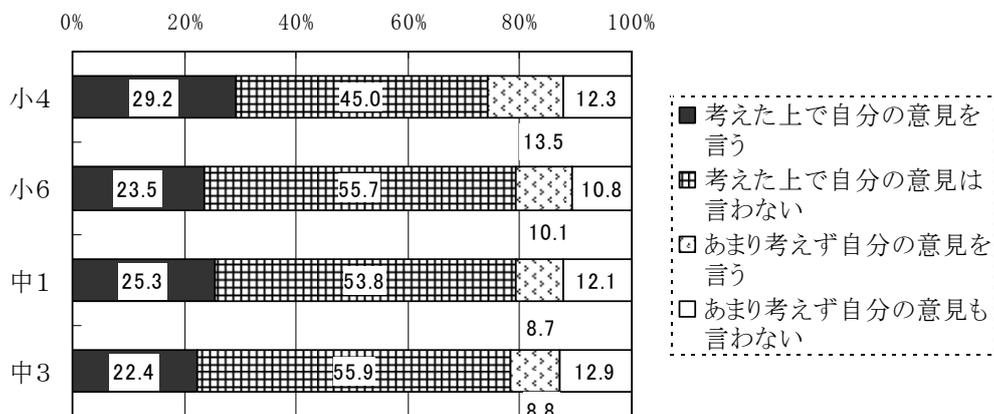
小学校に入ると、家族との会話を中心であった幼児期と違って、友だちや担任の先生との会話が増え、さらに、中学校では、担任以外の先生と関わる機会が増えます。また、思春期になると、親から自立しようとする気持ちも強くなります。このような人間関係の広がりや自立意識の高まりなどが、「学校のことで困ったときに励ましてもらうとうれしい相手」の回答に表れていると考えられます。

「あなたは、学校のことで困ったとき、だれにはげましてもらうとうれしいですか」(友だち、担任、担任以外の先生、親)



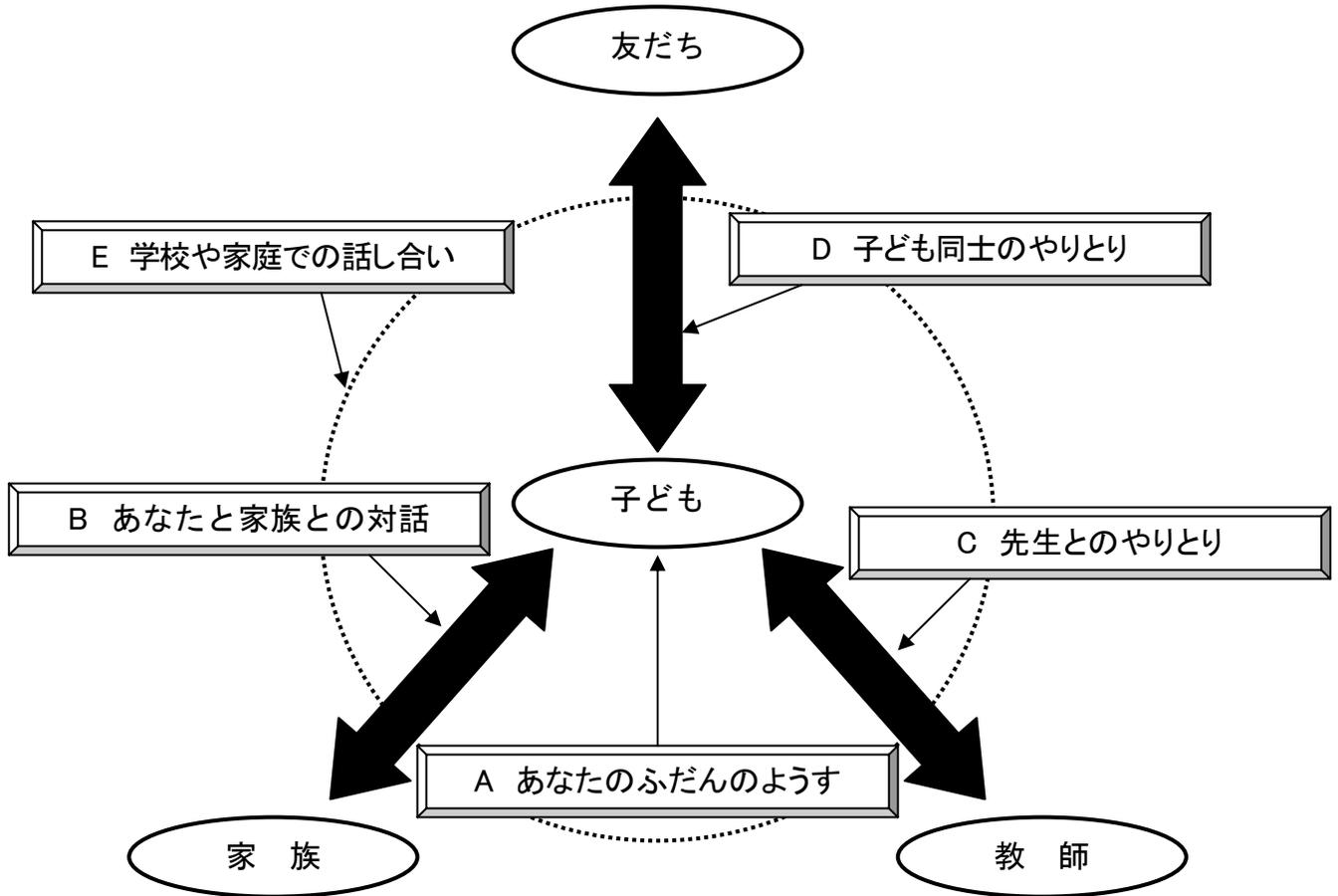
小・中を通じて、対話や話し合いを通して課題を解決しようとする意識は十分育っていない。

「話し合いで、自分とちがう意見を友だちから先に言われたとき、どのようにすることが多いですか」



(2) 「子どもたちのコミュニケーションに関するアンケート調査（平成19年6月）」
で構想したこと

調査対象に、小2児童、高1生徒を新たに加え、教科学習以外の活動や学級以外の活動についても、調査項目を設定しました。学校生活の中での様々な諸活動を見直して、子どもたちを取り巻く、家族、教師、子ども同士のそれぞれの間でコミュニケーションに対する意識の特徴から、指導の糸口を見いだすことをねらいとしました。



〔子どもを取り巻く人的要素とAからEの5区分の調査項目とのかかわり〕

(単純集計結果で着目した主な特徴)

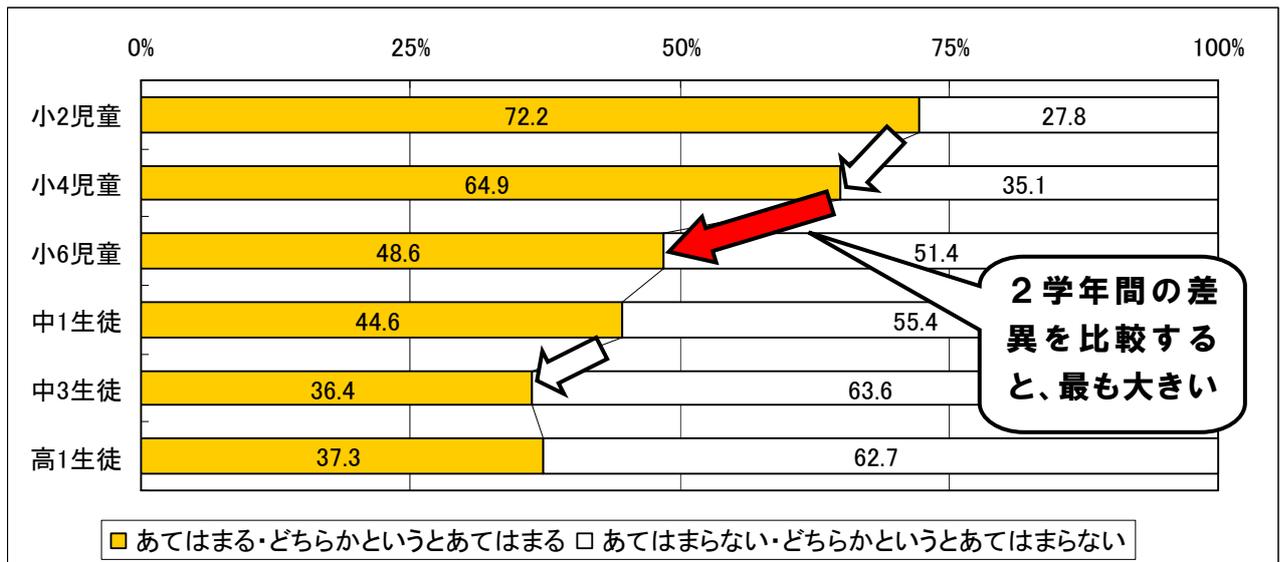
子どもたち同士で対話や話し合いができるような人間関係づくりについて、子どもたちの意識の特徴を把握しました。また、小2児童と高1生徒を調査対象に加えたことで、昨年度の調査で明らかになった小学校の中学年と高学年との間での意識の変化が、今年度の調査で、さらに浮き彫りになりました。

着目した主な特徴を、以下の6つにまとめました。

特徴 1

コミュニケーションに関する子どもの意識は、学年が上がるにしたがって変化する。特に、小4から小6の小学校中学年から高学年の間の変化が顕著である。(例) B⑤

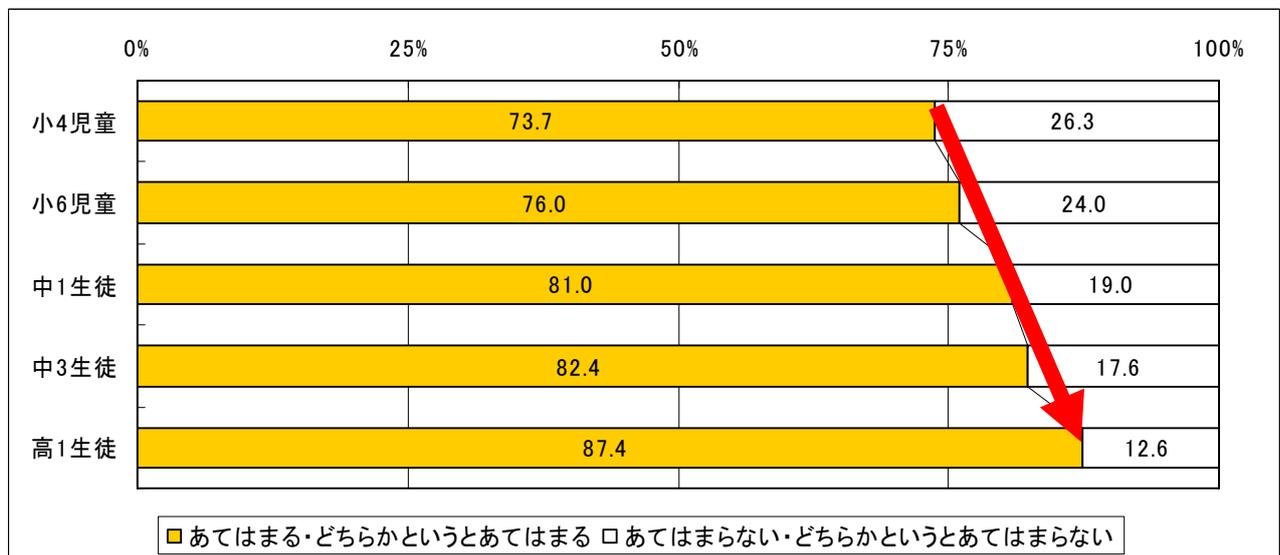
B⑤	わたしは、きまりややくそくについて、いえの人とはなす。	小2児童
B⑤	わたしは、決まりややくそくについて、家の人と話し合う。	小4・6児童
B⑤	私は、決まりや約束について、家の人と話し合う。	中1・3生徒
B⑤	私は、決まりや約束について、家の人と話し合う。	高1生徒



特徴 2

学年が上がるほど、「大切だと思うことを、自分で考えて決めようとしている」という自立意識が高まると考えられる。(A⑤)

A⑤	私は、大切だと思うことは、自分で決めようとしている。	小4・6児童
A⑤	私は、大切だと思うことは、自分で決めようとしている。	中1・3生徒
A⑤	私は、大切だと思うことを、自分で考えて決めようとしている。	高1生徒

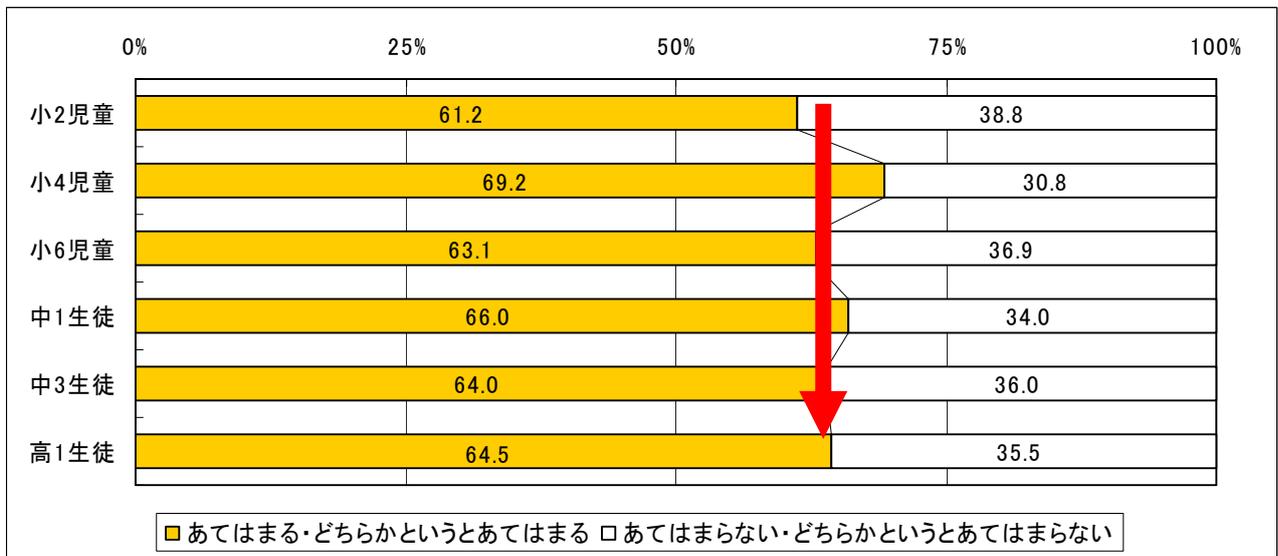


特徴3

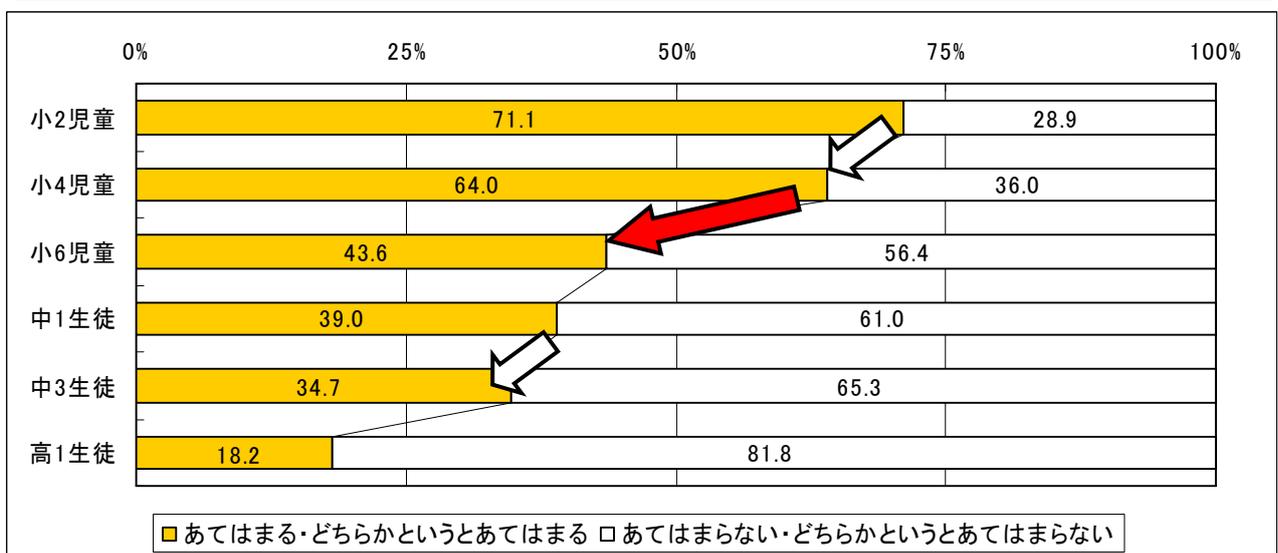
「みんなの前に出て発表するとき、とても緊張する」という意識は、学年が上がってもあまり変化しない。

一方、「教科の学習で、自分の考えを進んで発言している」ということについては、学年が上がるにしたがって割合が低くなる傾向が見られ、「みんなの前に出て発表するとき、とても緊張する」という意識とは、別な要因と関連していることが推察される。

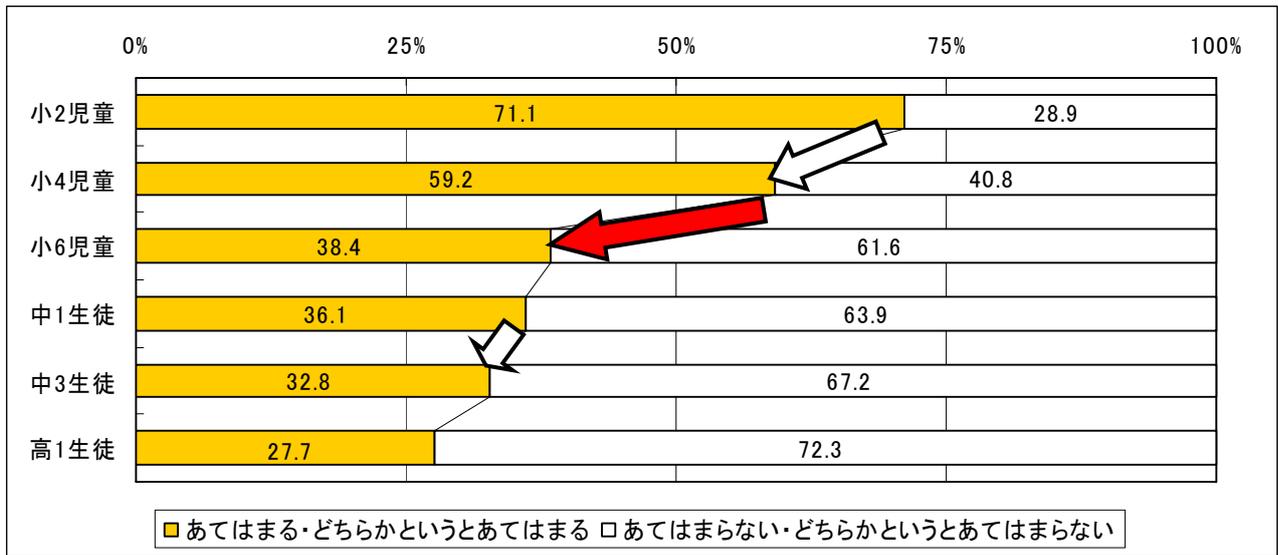
A③	わたしは、みんなのまえで はなすとき、とてもドキドキする。	小2児童
A④	わたしは、みんなの前に出て発表するとき、とてもきんちょうする。	小4・6児童
A④	私は、みんなの前に出て発表するとき、とても緊張する。	中1・3生徒
A④	私は、みんなの前に出て発表するとき、とても緊張する。	高1生徒



A①	わたしは、がっきゅうで、じぶんのかんがえをすすんで、はなしている。	小2児童
A①	わたしは、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。	小4・6児童
A①	私は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。	中1・3生徒
A①	私は、教科の学習で、自分の考えを進んで発言している。	高1生徒



A①	わたしは、がっきゅうで、じぶんのかんがえをすすんで、はなしている。	小2児童
A②	わたしは、教科の学習いがいの学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。	小4・6児童
A②	私は、教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。	中1・3生徒
A②	私は、教科の学習以外の学級の話し合いで、自分の考えを進んで発言している。	高1生徒

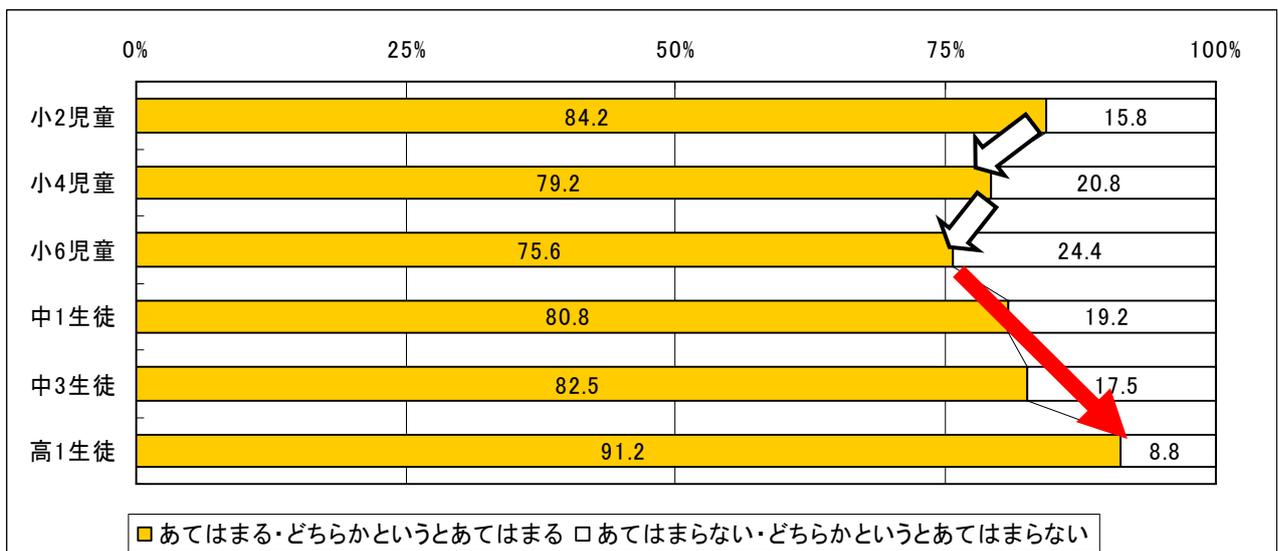


特徴4

「Aあなたのふだんのような」の項目のうち、友だちとのかかわりの項目は、「あてはまる」、「どちらかというあてはまる」の肯定的回答の割合が、小2、小4、小6については、特徴1と同様に学年が上がるにしたがって割合が低くなっている。

一方、中1、中3、高1については、学年が上がるにしたがって割合が高くなっている。

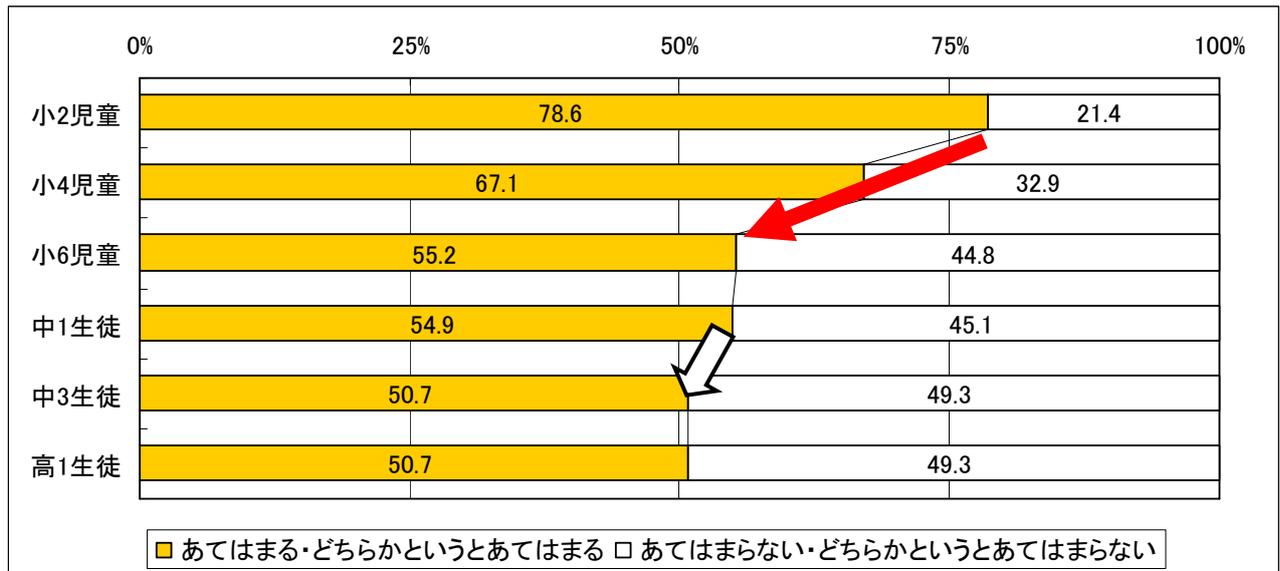
A④	わたしは、ともだちの気持ちをかんがえながら、はなしをきいている。	小2児童
A⑦	わたしは、友だちの気持ちを考えながら話を聞いている。	小4・6児童
A⑦	私は、友達の気持ちを考えながら話を聞いている。	中1・3生徒
A⑦	私は、友達の気持ちを考えながら話を聞いている。	高1生徒



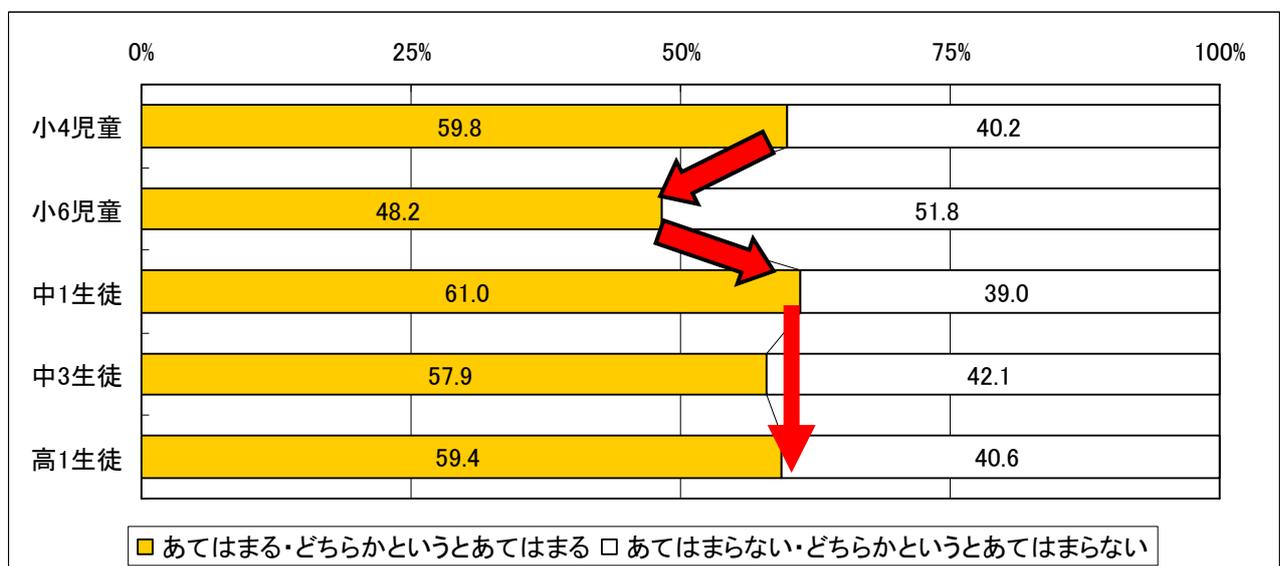
特徴5

小学校では、問題点をなくすための話し合いの場は、主に学級であるが、中学校や高校では、生徒会や部活動などが加わると考えられる。小6以降、大きな意識の変化は見られない。

D②	がっきゅうでこまったことがあったとき、みんなで、はなし合うことができる。	小2児童
D③	学級では、問題点をなくすため、そのことをみんなで話題にすることができる。	小4・6児童
D③	学級では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。	中1・3生徒
D③	学級では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。	高1生徒



D④	ほかの学年の人との活動では、問題点をなくすため、そのことをみんなで話題にすることができる。	小4・6児童
D④	生徒会活動や部活動では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。	中1・3生徒
D④	生徒会活動や部活動では、問題点を解決するため、そのことをみんなで話題にすることができる。	高1生徒

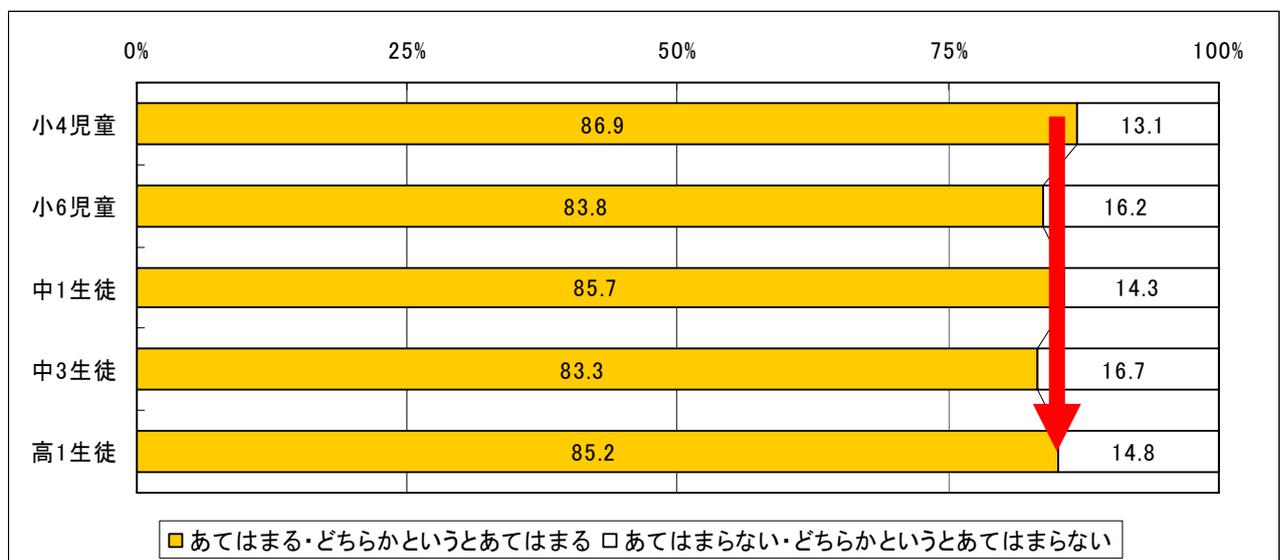


特徴6

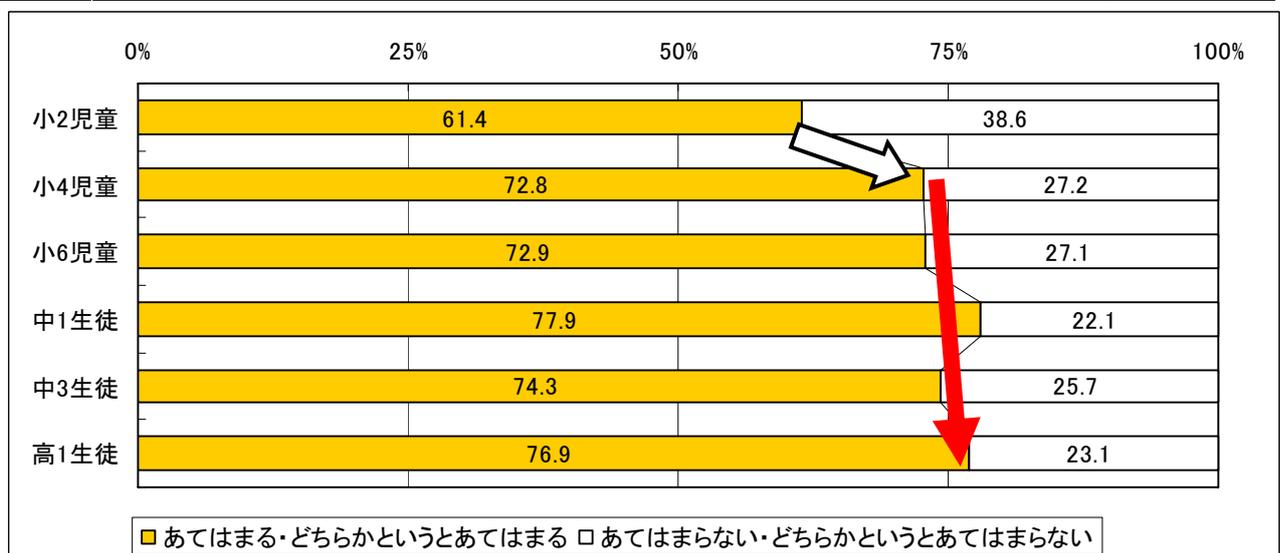
「教科の学習で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う」という項目については、「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」の肯定的回答の割合が、学年が上がってもあまり変化しない。

また、わからないことを友達と教え合うことについては、「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」の肯定的回答の割合が、小2から小4の間で増えるが、小4以降は、学年が上がってもあまり変化しない。

A⑧	わたしは、教科の学習で、友だちの発言を聞くことは、自分のためになると思う。	小4・6児童
A⑧	私は、教科の学習で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。	中1・3生徒
A⑧	私は、教科の学習で、友達の発言を聞くことは、自分のためになると思う。	高1生徒



A⑤	わたしは、じゅぎょうでは、ともだちとおしえあって、べんきょうしている。	小2児童
A⑩	わたしは、教科の学習で、わからないことを友だちと教え合っている。	小4・6児童
A⑩	私は、教科の学習で、わからないことを友達と教え合っている。	中1・3生徒
A⑩	私は、教科の学習で、わからないことを友達と教え合っている。	高1生徒



補足：今後の分析について

児童生徒、教師、保護者の回答を比較したり、項目間のクロス集計を行ったりして、現状を多面的にとらえ、指導の糸口を見いだします。平成20年3月には、単純集計結果とともに報告書にまとめる予定です。

児童生徒、教師、保護者の回答を比較の例：「きまりや約束」についての項目



きっかけづくりは、まず学校から

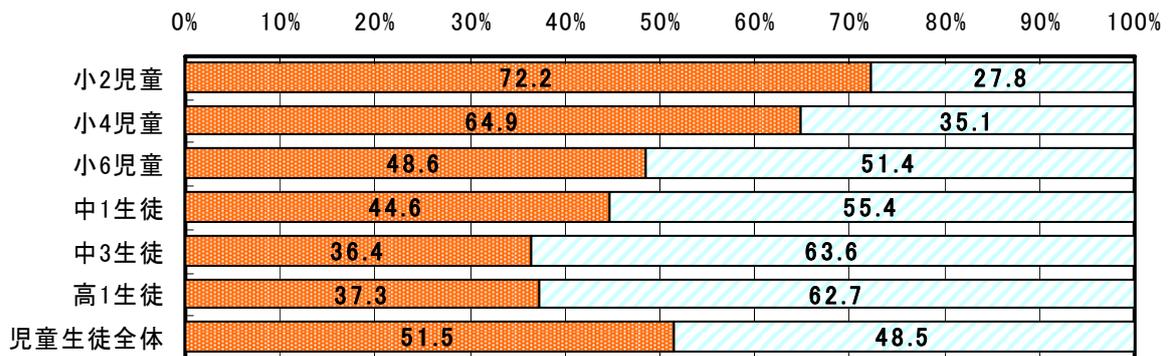
大多数の保護者は、機会があれば、「きまり」や「約束」について子どもと話そうと思っていることが、次の調査結果から分かります。学校が家庭に積極的に働きかけて、身近なルールやマナーについて、話題にしてもらおう機会をつくるのが大切であると考えられます。

「きまり」や「約束」について、話題にしようと思っている保護者は8割を超えています。

● 調査対象

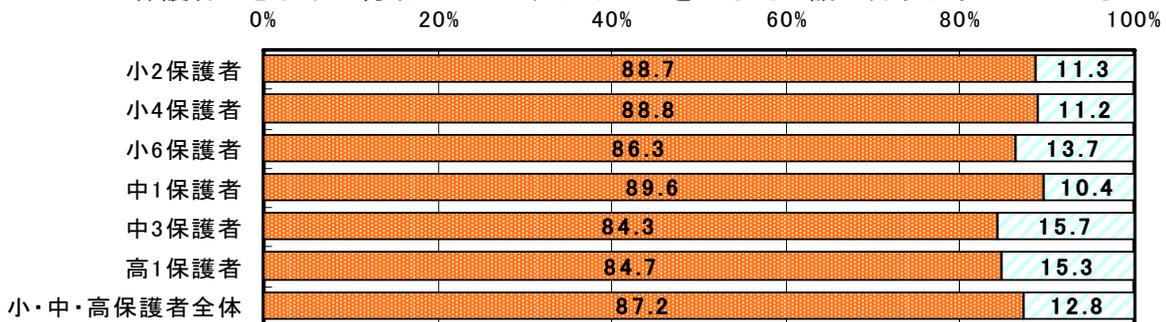
児童生徒	2,391名	(小1,284 中756 高351)
保護者	2,250名	(小1,227 中710 高313)
担任教師	628名	(小 181 中154 高293)

児童生徒：きまりや約束について、家の人と話し合う。



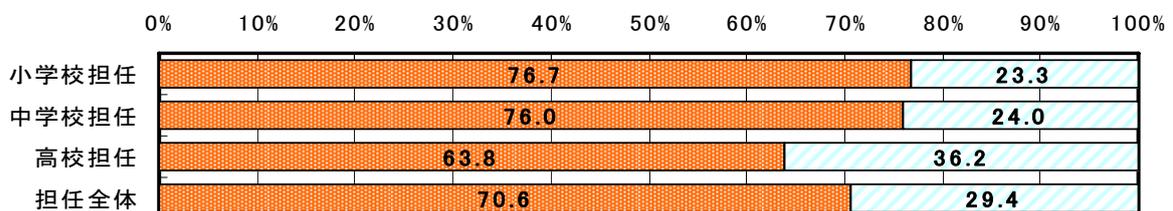
■ あてはまる・どちらかというにあてはまる □ あてはまらない・どちらかというにあてはまらない

保護者：きまりや約束について、チャンスをとらえて話し合うようにしている



■ あてはまる・どちらかというにあてはまる □ あてはまらない・どちらかというにあてはまらない

教師：決まりや約束について、チャンスをとらえて家庭で話題にするよう、生徒や保護者に働きかけている



■ あてはまる・どちらかというにあてはまる □ あてはまらない・どちらかというにあてはまらない